

未成年者の喫煙環境を取り巻く環境に関する調査研究

未成年者の喫煙を取り巻く環境に関する調査研究

青少年がよく読む漫画雑誌の喫煙シーンについての調査

分担研究者 尾崎米厚
研究協力者 神田秀幸

（鳥取大学・医学部・社会医学講座・助教授）
（福島県立医大・衛生学・助手）

研究要旨

目的：未成年者の喫煙および飲酒行動を取り巻く環境要因の実態と課題を明らかにするために、中高生の喫煙及び飲酒行動に影響を与える社会的環境として、青少年がよく読む漫画雑誌の喫煙シーン実態と動向を調査した。また、2004年度中高生の喫煙及び飲酒行動に関する全国調査の結果を再分析し、中高生がよく読む漫画雑誌と喫煙行動の関連を検討した。これらにより、喫煙シーンの青少年の喫煙への影響を考察し、規制等対策のあり方を検討する。

方法：1) 漫画雑誌調査：青少年のよく読む漫画雑誌における喫煙シーンに関する研究では、調査対象雑誌は、小中高生に良く読まれており、発行部数も多い少年コミック誌5誌とした。調査対象雑誌は男女別によく読まれる雑誌を選んだ。対象雑誌のすべてのページをめくってそれに出てくる喫煙シーンを数量的に測定した。調査対象期間は1994-2003年の10年間分であった。

2) 2004年度全国調査の調査項目の中にある、中高生のよく読むマンガ雑誌の名前別に喫煙経験者率、月喫煙者率、毎日喫煙者率を集計した。

研究結果および考察：今回調査したすべての雑誌の毎号にかならず喫煙シーンが認められた。年次別喫煙シーン数をみると、男子向け5雑誌の10年分の総喫煙シーンは10846シーンにのぼった。これを喫煙シーンの大きさをページ換算した場合、3016ページ分となった。これらを漫画雑誌100ページ分に換算すると0.34ページ分、1.23シーン、雑誌1冊分にすると1.73ページ、6.23シーンとなった。女子向け雑誌では、10年間で1496シーン、349ページ分となった。これは、女子のよく読む雑誌が月刊誌が多いことにもよる。100ページ当りにすると0.09ページ、0.38シーン、1冊あたり0.42ページ、1.78シーンと男女差は縮まった。雑誌別に見ると、差が大きく、中高生男子に最もよく読まれる少年漫画誌である少年ジャンプと少年マガジンの喫煙シーンは多く、特に少年マガジンが多かった。小学生が主な読者で中学生も読むコロコロコミック、コミックボンボンでも喫煙シーンが認められた。少女向けの雑誌では少女コミックで比較的喫煙シーンが多かった。未成年の喫煙はよくないというメッセージを発していたシーンは極めて少なく10年間で男子向け雑誌28シーン、女子向け雑誌12シーンにすぎなかった。

2004年の全国調査の結果をお気に入りの漫画雑誌別に分析すると、読まない人に比べ中学男子では少年マガジンを読む人に喫煙率が高い傾向が認められた。

結論：中高生がよく読む漫画雑誌に多くの喫煙シーンが存在することが明らかになった。未成年者は、読む雑誌を通して喫煙シーンに曝露されていることが明らかになった。また、2004年全国調査の再分析により、中学生男子では喫煙シーンの多い雑誌を読むことと喫煙行動が関連することが示唆された。今後は、作者、出版社へ喫煙シーンをなくすよう要望する必要がある。

研究協力者 岸本拓治、岡本幹三（鳥取大学医学部・環境予防医学分野）、小谷和彦（鳥取大学医学部・健康政策医学）

A. 研究目的

未成年者の飲酒および喫煙は将来の疾病予防、交通事故、暴力などの問題行動、他の非合法薬物の使用、健康的なライフスタイルの確立、ひいては性行為感染症の助長要因などに関連して思春期における極めて重要な健康関連行動である。わが国では未成年喫煙禁止法、未成年飲酒禁止法があるにもかかわらず、多くの未成年者が喫煙および飲酒を行っていることが中高生の飲酒及び喫煙行動に関する全国調査により明らかにされてきた。従って未成年者の飲酒および喫煙行動をいかに防止するかは将来のわが国の健康状態に影響を与えうる大変重要な健康課題であり、これらを継続的に調査することは世界中で最も重要な思春期保健の課題である。21世紀の国民の健康づくり政策として2000年に公表された健康日本21においても未成年者の喫煙及び飲酒はたばこ及びアルコールの分野で取り上げられている重要な指標となっている。

未成年者の喫煙および飲酒対策を推進するための調査は全国調査による喫煙および飲酒行動のモニタリングが最も重要であるが、どのような関連要因があるかを明らかにし、それに基づいた適切な介入方法が検討され、学校やその他の場での喫煙防止対策、飲酒防止対策が展開されその成果が評価されることが必要である。しかし、わが国では欧米に比べ喫煙及び飲酒行動の関連要因についての調査研究が立ち遅れているのが現状である。すなわち、児童生徒を取り巻く人的環境である友人や家族の喫煙や飲酒が未成年者の喫煙及び飲酒行動に影響を及ぼしていることはいくつかの報告があるが、未成年者を取り巻く地域の社会環境に関する調査やそれが未成年者の喫煙及び飲酒行動にどのような影響を及ぼしているかについての調査はほとんど行われてきていない。ヘルスプロモーションの視点からも、個人の健康行動に関連する社会環境に焦点を当てた対策の重要性は強調されており、未成年者の飲酒及び喫煙を取り巻く社会的環境要因を分析し、効果的な対策に役立てることは大変重要な研究であるといえる。

WHO が主導した初めて国際条約たばこ規制枠組条約 (FCTC: Framework Convention on Tobacco Control) が 2003 年に採択され、わが国も批准し、2004 年 2 月に発効した。未成年者の喫煙防止対策に関連して、FCTC では、タバコ価格の上昇 (タバコ税の増加)、受動喫煙防止措置、タバコの箱のラベルの警告表示の強化、教育啓発、タバコの広告、販売促進、スポンサーシップの規制、未成年者への販売禁止等をあげている。特に広告規制では、あらゆるタバコの広告を禁止すべきであると (憲法により規制できなければ制限を加える) しており、健康影響に誤った印象を与える手段の広告の禁止、景品、割引などの奨励措置の制限も述べている。

未成年者の喫煙や飲酒を取り巻く社会環境として重要なのは、未成年者がタバコや酒に興味を持つような環境としての広告 (雑誌、テレビ、新聞、交通広告、街頭広告等)、スポーツのスポンサーとしてなどのプロモーション活動、未成年者のあこがれの存在 (芸能人等) の喫煙・飲酒シーン、わが国の青少年のライフスタイルに大きな影響を与える漫画雑誌での喫煙・飲酒シーン、未成年者がタバコや酒を買いやすくするような環境と

しての、自動販売機、コンビニエンスストア等、未成年者がタバコや酒を飲む場所を提供する環境としての、カラオケボックスや居酒屋等、さらには未成年者がタバコや酒を飲むことが良くないという社会的な雰囲気などである。また、特に広告のような未成年者の喫煙に影響を及ぼす恐れがあると考えられる環境に影響を受けて未成年者がタバコの銘柄を選択する可能性もあると考えられる。

本研究では、これらのなかで、従来調べられてこなかった、青少年がよく読む漫画雑誌における喫煙シーンに焦点を当て、その実態を動向を明らかにし、青少年の喫煙行動への影響を考察することを目的とした。本研究で漫画雑誌をとりあげたのは、発行部数が極めて多く、わが国の青少年のライフスタイルに多大な影響を及ぼしていると考えられ、しかも日本独特の文化であるためである。既に世界各国にわが国の漫画文化は、広がりつつあり、漫画内容の青少年への悪影響が心配されだしている。本研究は、それらに関連する基礎的研究にも位置づけられる。さらに、本研究により酒およびタバコを試しやすくする環境の問題点が明らかになるため、我が国においてそれらの規制を行うべきかどうかと

いう政策判断の極めて重要な判断材料を提供することになる。

B. 研究方法

1. 中高生がよく読む漫画雑誌における喫煙シーンに関する数量的研究

研究方法は、一定の判断基準を設けた調査票による雑誌調査である。調査対象雑誌は、小中高生に良く読まれており（毎日新聞社が毎年調査）、発行部数も多い少年コミック誌5誌とした。男子向け雑誌では、週刊少年ジャンプ（マガジンデータ2004 週刊1号当り平均発行部数 299万）、週刊少年マガジン（同 週刊 272万）、週刊少年サンデー（同 週刊 116万）、コロコロコミック（同 月刊 120万）、コミックボンボン（同 月刊 19万）である。女子向け雑誌では、りぼん（同 月刊 73万）、なかよし（同 月刊 46万）、ちゃお（同 月刊 107万）、少女コミック（同 月2回 30万）、マーガレット（同 月2回 21万）、別冊マーガレット（同 月刊 38万）、花とゆめ（同 月2回 30万）であった。少女向け雑誌はよく読まれる漫画雑誌ベスト5が調査年により変化したため、年別に対象雑誌を変更した。国会図書館等に調査員

が出向き、対象雑誌のすべてのページをめぐってそれに出てくる喫煙シーンを数量的に測定するために、調査シートを作成した。調査項目は作者の性別、まんがの種類、喫煙者が主役か脇役か、喫煙者の性別、喫煙シーンの数、大きさ、たばこ製品の種類（紙巻たばこ、葉巻、パイプ）、たばこの本数、銘柄名（パロディ銘柄名含）がわかるか、であった。本研究では調査年は、1994年から2003年発行までの10年分とした。喫煙シーンのページ換算では、喫煙シーン数（マンガのコマ）が1ページに占める割合＝ページ数換算で集計した。

2. よく読む漫画雑誌と中高生の喫煙行動との関連

2004年度に実施した、中高生の喫煙及び飲酒行動に関する全国調査の調査項目に、「最もお気に入りの漫画雑誌」をたずねるため、雑誌別喫煙経験者率、月喫煙者率、毎日喫煙者率を集計し、それらの関連を検討した。

C. 研究結果および考察

1. 漫画雑誌の喫煙シーン

今回調査したすべての雑誌の毎号にかな

らず喫煙シーンが認められた。年次別喫煙シーン数をみると、男子向け5雑誌の10年分の総喫煙シーンは10846シーンにのぼった。これを喫煙シーンの大きさをページ換算した場合、3016ページ分となった。これらを漫画雑誌100ページ分に換算すると0.34ページ分、1.23シーン、雑誌1冊分にすると1.73ページ、6.23シーンとなった。女子向け雑誌では、10年間で1496シーン、349ページ分となった。これは、女子のよく読む雑誌が月刊誌が多いことにもよる。100ページ当りにすると0.09ページ、0.38シーン、1冊あたり0.42ページ、1.78シーンと男女差は縮まった。年次別に見ると、年により増減があり一定の傾向は認められないが、10年間を前半後半に分けると、男女とも後半のほうが喫煙シーンがやや多い傾向が認められた。また男女とも喫煙シーンが極めて多く登場する特定の作品があることが明らかになった。登場人物の性別にみると男性の喫煙シーンが圧倒的に多かった。(表1)

雑誌別に見ると、差が大きく、中高生男子に最もよく読まれる少年漫画誌である少年ジャンプと少年マガジンの喫煙シーンは多く、特に少年マガジンで多かった。少年マガジンでは、10年間で5023シーン、1432ページ分の喫煙シーンが認められ、毎号読む青少年にとっては、年間かなりの量の喫煙シーンに曝露されているといえる。小学生が主な読者で中学生も読むコロコロコミック、コミッ

クボンボンでも喫煙シーンが毎号認められた。少女向けの雑誌では男子向け雑誌より喫煙シーンは少なかったが、すべての調査号に喫煙シーンが存在し、少女コミックで比較的喫煙シーンが多かった(表2)。未成年の喫煙あるいは喫煙はよくないというメッセージを発していたシーンは極めて少なく10年間で男子向け雑誌28シーン、女子向け雑誌12シーンにすぎなかった(表3)。

2. お気に入りの漫画雑誌と中高生の喫煙行動との関連

2004年の全国調査の結果をお気に入りの漫画雑誌別に分析すると、読まない人に比べ中学男子では少年マガジンを読む人に喫煙率が高い傾向が認められた。中学男子では、漫画を読まない人に比べ少年ジャンプを読む少年の喫煙率は高くなかったが、やマガジンを読む男子の喫煙率が高い傾向にあった。また、特に高校生男子では、少年漫画雑誌を読む生徒の喫煙率は高くはなく、むしろ異性向け、小学生向けの漫画誌をよむ者の喫煙率が高い傾向が認められた。女子中学生では、少女コミック、男子向け雑誌を読む生徒の喫煙率が高い傾向が認められた。高校女子でははっきりした傾向が認められなかったが、少なくとも漫画雑誌を読むものの喫煙率が高いとはいえなかった(表4)。

E. 結論

中高生がよく読む漫画雑誌に多くの喫煙シーンが存在することが明らかになった。未成年者は、読む雑誌を通して喫煙シーンに曝露されていることが明らかになった。また、2004年全国調査の再分析により、中学生男子等では喫煙シーンの多い雑誌を読むことと喫煙行動が関連することが示唆された。今後は、作者、出版社へ喫煙シーンをなくすよう要望する必要がある。

尾崎米厚. 中央調査社報 2006;580:1-4.

9. 和田清、近藤あゆみ、高橋伸彰、尾崎米厚、勝野眞吾. 青少年の薬物使用問題 全国中学生意識・実態調査(2004年)から. 思春期学 2006;24(1):70-73.

10. 尾崎米厚. 飲酒行動の性差. 性差と医療 2006;3(8):821-827.

11. 尾崎米厚. わが国でも国際比較のデータが必要. 世界の医学誌から 解説. MMJ 2006;2(8):695.

12. 尾崎米厚, 谷畑健生, 大井田隆, 簗輪眞澄, 鈴木健二, 和田清, 神田秀幸, 林謙治. わが国と世界各国の青少年の喫煙行動の比較. 日本禁煙医師歯科医師連名通信 2006;15(4):4-6.

F. 文献

1. Osaki Y, Tanihata T, Ohida T, Minowa M, Wada K, Suzuki K, Kaetsu A, Okamoto M, Kishimoto T. Adolescent smoking behaviour and cigarette brand preference in Japan. *Tobacco Control* 2006; 15: 172-180.

2. Kaneita Y, Ohida T, Osaki Y, Tanihata T, Minowa M, Suzuki K, Wada K, Kanda H, Hayashi K. Insomnia among Japanese adolescents: A nationwide representative survey. *Sleep* 2006;29(12):1543-1550.

3. 簗輪眞澄、尾崎米厚. 若年における喫煙開始がもたらす悪影響. 保健医療科学 2006;54(4):262-277.

4. 神田秀幸、尾崎米厚、谷畑健生. 未成年者を対象とした喫煙対策の世界的動向—Cochrane Database of Systematic Reviewsにおける文献考察—. 保健医療科学 2006;54(4):278-283.

5. 尾崎米厚. 青少年の喫煙行動、関連要因、および対策. 保健医療科学 2006;54(4):284-289.

6. 2004年中高生の飲酒及び喫煙行動に関する全国調査結果の速報 なぜ、中高生の飲酒率が下がったか?尾崎米厚. *PREVENTION* 2006;161:2-3.

7. アルコール教育. 尾崎米厚. *クリニカルプラクティス* 2006;25(3):211-214.

8. 中高生の飲酒行動に関する最新の動向.

表1 年次別にみた漫画雑誌の喫煙シーンの数および量(ページ換算)

	少年雑誌												総計
	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2003		
ページ換算(男)	145.5	152.55	142.3	346.25	223.7	415.95	353.75	508	171.35	317.2	2776.55		
ページ換算(女)	23	12.65	18	24.1	14.8	12.7	7.2	22.95	3.9	39.35	178.65		
ページ換算(その他)	3.8	2.4	4.75	7.4	7.1	6	2.8	6.55	8.5	11.7	61		
喫煙ページ換算(合計)	172.3	167.6	165.05	377.75	245.6	434.65	363.75	537.5	183.75	368.25	3016.2		
喫煙シーン数	747	576	672	1406	990	1395	1327	1854	669	1210	10846		
分析ページ数	78832	80471	82312	82540	95364	88968	88774	87302	85240	109270	879073		
分析冊数	169	166	167	164	180	170	171	169	165	221	1742		
喫煙ページ/100ページ	0.22	0.21	0.2	0.46	0.26	0.49	0.41	0.62	0.22	0.34	0.34		
喫煙ページ/1冊	1.02	1.01	0.99	2.3	1.36	2.56	2.13	3.18	1.11	1.67	1.73		
喫煙シーン/ページ	0.95	0.72	0.82	1.7	1.04	1.57	1.49	2.12	0.78	1.11	1.23		
喫煙シーン/1冊	4.42	3.47	4.02	8.57	5.5	8.21	7.76	10.97	4.05	5.48	6.23		
少女雑誌	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	総計		
ページ換算(男)	15.55	24.15	25.9	59.75	42.6	29.05	25.05	41.05	19.8	36.45	319.35		
ページ換算(女)	0.5	0.85	1.75	2.75	1.75	3.5	0.55	5.4	2.35	19.4	19.4		
ページ換算(その他)	0.3	1.95	1	0.6	1.5	1	1.05	1	0	2.3	10.7		
喫煙ページ換算(合計)	16.35	26.95	28.65	63.1	45.85	33.55	26.65	47.45	22.15	38.75	349.45		
喫煙シーン数	101	114	136	209	164	144	141	181	132	174	1496		
分析ページ数	34225	34644	44464	37932	38478	37892	38388	38530	43912	45602	394067		
分析冊数	72	73	95	83	83	82	83	83	93	94	841		
喫煙ページ/100ページ	0.05	0.08	0.06	0.17	0.12	0.09	0.07	0.12	0.05	0.08	0.09		
喫煙ページ/1冊	0.23	0.37	0.3	0.76	0.55	0.41	0.32	0.57	0.24	0.41	0.42		
喫煙シーン/ページ	0.3	0.33	0.31	0.55	0.43	0.38	0.37	0.47	0.3	0.38	0.38		
喫煙シーン/1冊	1.4	1.56	1.43	2.52	1.98	1.76	1.7	2.18	1.42	1.85	1.78		

表2 雑誌別にみた年次別漫画雑誌の喫煙シーンの数および量(ページ換算)

少年雑誌	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	総計
喫煙シーンの換算ページ											
少年ジャンプ	62.75	55.6	55.5	80.65	69.35	217.45	59.05	163.25	52.8	79.75	896.15
少年マガジン	63.3	37.65	76.7	247.1	140.6	158.3	239.9	300.55	58.1	110.45	1432.65
少年サンデー	45.05	36.45	25.55	42.45	34.2	55.25	61.3	71.45	67	36.6	475.3
コロコロコミック	0.85	7.15	1.7	4.7	0.1	2.05	1.35	2.15	1.3	0.9	22.25
コミックボンボン	0.35	30.75	5.6	2.85	1.35	1.6	2.15	0.1	4.55	0.25	49.55
喫煙シーン数											
少年ジャンプ	246	161	210	286	278	701	246	561	206	292	3187
少年マガジン	283	174	310	883	520	476	808	1008	199	362	5023
少年サンデー	193	142	117	190	156	188	240	257	231	133	1847
コロコロコミック	13	21	15	32	24	16	17	16	15	14	183
コミックボンボン	12	78	20	15	12	14	16	12	18	12	209
分析ページ数											
少年ジャンプ	21572	21560	21796	20920	22470	21776	22158	22258	21792	20912	217214
少年マガジン	21038	21091	21286	21234	22850	24076	24192	23442	22583	23688	225480
少年サンデー	20124	20074	21252	22262	21564	23134	22584	22076	21337	22976	217383
コロコロコミック	7912	8032	8516	9136	19256	9990	9782	9528	9560	9088	100800
コミックボンボン	8186	9714	9462	8988	9224	9992	10058	9998	9968	9178	94768
分析冊数											
少年ジャンプ	49	48	48	45	49	47	48	48	47	45	474
少年マガジン	48	48	48	47	48	49	50	49	47	49	483
少年サンデー	48	46	47	48	47	50	49	48	47	51	481
コロコロコミック	12	12	12	12	24	12	12	12	12	12	132
コミックボンボン	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	120
100ページ当り喫煙シーンページ											
少年ジャンプ	0.29	0.26	0.25	0.39	0.31	1	0.27	0.73	0.24	0.38	0.41
少年マガジン	0.3	0.18	0.36	1.16	0.62	0.66	0.99	1.28	0.26	0.47	0.64
少年サンデー	0.22	0.18	0.12	0.19	0.16	0.24	0.27	0.32	0.31	0.16	0.22
コロコロコミック	0.01	0.09	0.02	0.05	0	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.02
コミックボンボン	0	0.32	0.06	0.03	0.01	0.02	0.02	0	0.05	0	0.05
1冊あたり喫煙シーン数											
少年ジャンプ	5.02	3.35	4.38	6.36	5.67	14.91	5.13	11.69	4.38	6.49	6.72
少年マガジン	5.9	3.63	6.46	18.79	10.83	9.71	16.16	20.57	4.23	7.39	10.4
少年サンデー	4.02	3.09	2.49	3.96	3.32	3.76	4.9	5.35	4.91	2.61	3.84
コロコロコミック	1.08	1.75	1.25	2.67	1	1.33	1.42	1.33	1.25	1.17	1.39
コミックボンボン	1	6.5	1.67	1.25	1	1.17	1.33	1	1.5	1	1.74
1冊あたり喫煙シーンページ											
少年ジャンプ	1.28	1.16	1.16	1.79	1.42	4.63	1.23	3.4	1.12	1.77	1.89
少年マガジン	1.32	0.78	1.6	5.26	2.93	3.23	4.8	6.13	1.24	2.25	2.97
少年サンデー	0.94	0.79	0.54	0.88	0.73	1.11	1.25	1.49	1.43	0.72	0.99
コロコロコミック	0.07	0.6	0.14	0.39	0	0.17	0.11	0.18	0.11	0.08	0.17
コミックボンボン	0.03	2.56	0.47	0.24	0.11	0.13	0.18	0.01	0.38	0.02	0.41
少女雑誌											
喫煙シーンの換算ページ											
りぼん	0.1	2.55	3.05	0.65	9.9	7.65	0.25	3.35	5.15	1	33.65
なかよし	7.5	4	6.8	6.85	6.3	3.85	5.15	0.3	0.1	2.6	43.45
ちゃお	0.35	0.85	1.85	0.6	13.1	1.6	3.95	1.2	3.1	0.25	26.85
少女コミック	3.55	13.15	9.95	51.5	13.8	18.8	15.2	41.35	6.95	4.05	174.25
マーガレット			4.9	3.5	2.75	1.65	2.1	1.25	0.75		20.95
別冊マーガレット	4.85	6.4	2.1						6.1		19.45
花とゆめ										30.85	30.85
喫煙シーン数											
りぼん	12	16	20	13	29	26	13	16	24	13	182
なかよし	22	17	25	19	27	17	19	13	12	21	192
ちゃお	12	12	15	14	38	14	21	15	16	19	176
少女コミック	34	45	34	134	46	61	61	112	32	30	559
マーガレット			27	29	24	26	27	25	23		211
別冊マーガレット	21	24	15						25		85
花とゆめ										91	91
分析ページ数											
りぼん	5602	5616	5656	5602	5670	5624	5642	5648	5756	5638	56454
なかよし	5266	5908	5418	5384	5688	5724	5760	5786	5770	7880	58584
ちゃお	5990	5846	5660	5672	5774	5712	5674	5748	5868	10670	62614
少女コミック	10887	10868	10872	10886	10938	10422	10906	10936	9982		96697
マーガレット			10550	10388	10408	10410	10406	10412	10056	10544	83174
別冊マーガレット	6480	6406	6308						6480		25674
花とゆめ										10870	10870
分析冊数											
りぼん	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	120
なかよし	12	13	12	12	12	12	12	12	12	15	124
ちゃお	12	12	12	12	12	12	12	12	12	19	127
少女コミック	24	24	24	24	24	23	24	24	22	24	213
マーガレット			23	23	23	23	23	23	23	24	185
別冊マーガレット	12	12	12						12		48
花とゆめ										24	24
100ページ当り喫煙シーンページ											
りぼん	0	0.05	0.05	0.01	0.17	0.14	0	0.06	0.09	0.02	0.06
なかよし	0.14	0.07	0.13	0.13	0.11	0.07	0.09	0.01	0	0.03	0.07
ちゃお	0.01	0.01	0.03	0.01	0.23	0.03	0.07	0.02	0.05	0	0.04
少女コミック	0.03	0.12	0.09	0.47	0.13	0.18	0.14	0.38	0.07		0.18
マーガレット			0.05	0.03	0.03	0.02	0.02	0.01	0.01	0.04	0.03
別冊マーガレット	0.07	0.1	0.03						0.09		0.08
花とゆめ										0.28	0.28
1冊あたり喫煙シーン数											
りぼん	1	1.33	1.67	1.08	2.42	2.17	1.08	1.33	2	1.08	1.52
なかよし	1.83	1.31	2.08	1.58	2.25	1.42	1.58	1.08	1	1.4	1.55
ちゃお	1	1	1.25	1.17	3.17	1.17	1.75	1.25	1.33	1	1.39
少女コミック	1.42	1.88	1.42	5.58	1.92	2.65	2.54	4.67	1.45		2.62
マーガレット			1.17	1.26	1.04	1.13	1.17	1.09	1	1.25	1.14
別冊マーガレット	1.75	2	1.25						2.08		1.77
花とゆめ										3.79	3.79
1冊あたり喫煙シーンページ											
りぼん	0.01	0.21	0.25	0.05	0.83	0.64	0.02	0.28	0.43	0.08	0.28
なかよし	0.63	0.31	0.57	0.57	0.53	0.32	0.43	0.03	0.01	0.17	0.35
ちゃお	0.03	0.07	0.15	0.05	1.09	0.13	0.33	0.1	0.26	0.01	0.21
少女コミック	0.15	0.55	0.41	2.15	0.58	0.82	0.63	1.72	0.32		0.82
マーガレット			0.21	0.15	0.12	0.07	0.09	0.05	0.03	0.17	0.11
別冊マーガレット	0.4	0.53	0.18						0.51		0.41
花とゆめ										1.29	1.29

表3 タバコはダメというメッセージ(シーン数)

	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	総計
男子	4		4	3	1	6	2	2	4	2	28
女子		1	1				2	4	1	3	12

表4 最もお気に入りのマンガ雑誌別に見た喫煙経験者率、月喫煙者率、毎日喫煙者率(2004年度全国調査)

性別	中高	漫画雑誌名	経験あり	月喫煙	毎日喫煙	合計	性別	中高	漫画雑誌名	経験あり	月喫煙	毎日喫煙	合計		
男性	中学	読まない	度数	940	262	74	6,241	女性	中学	読まない	度数	659	178	31	5,808
			割合	15.1	4.2	1.2	100.0				割合	11.3	3.1	0.5	100.0
		少年ジャンプ	度数	1,684	410	74	9,222			少年ジャンプ	度数	324	68	15	2,419
			割合	18.3	4.4	0.8	100.0				割合	13.4	2.8	0.6	100.0
		少年マガジン	度数	178	62	19	714			少年マガジン	度数	28	8	2	152
			割合	24.9	8.7	2.7	100.0				割合	18.4	5.3	1.3	100.0
		少年サンデー	度数	86	10	2	603			少年サンデー	度数	14	4	0	215
			割合	14.3	1.7	0.3	100.0				割合	6.5	1.9	0.0	100.0
		コロコロコミック	度数	57	20	3	631			コロコロコミック	度数	7	4	1	70
			割合	9.0	3.2	0.5	100.0				割合	10.0	5.7	1.4	100.0
		コミックボンボン	度数	19	10	2	93			コミックボンボン	度数	4	1	0	15
			割合	20.4	10.8	2.2	100.0				割合	26.7	6.7	0.0	100.0
		りぼん	度数	17	7	6	39			りぼん	度数	81	19	4	1,045
			割合	43.6	17.9	15.4	100.0				割合	7.8	1.8	0.4	100.0
		なかよし	度数	10	5	2	17			なかよし	度数	6	0	0	216
			割合	58.8	29.4	11.8	100.0				割合	2.8	0.0	0.0	100.0
		別冊マーガレット	度数	5	3	1	12			別冊マーガレット	度数	111	21	0	718
			割合	41.7	25.0	8.3	100.0				割合	15.5	2.9	0.0	100.0
		ちゃお	度数	23	9	5	50			ちゃお	度数	29	10	3	384
			割合	46.0	18.0	10.0	100.0				割合	7.6	2.6	0.8	100.0
少女コミック	度数	16	12	9	40	少女コミック	度数	475	128	15	2,405				
	割合	40.0	30.0	22.5	100.0		割合	19.8	5.3	0.6	100.0				
マーガレット	度数	5	4	3	19	マーガレット	度数	65	14	1	455				
	割合	26.3	21.1	15.8	100.0		割合	14.3	3.1	0.2	100.0				
その他	度数	539	176	51	2,270	その他	度数	711	198	37	4,321				
	割合	23.7	7.8	2.2	100.0		割合	16.5	4.6	0.9	100.0				
無回答	度数	179	59	16	728	無回答	度数	90	24	7	483				
	割合	24.6	8.1	2.2	100.0		割合	18.6	5.0	1.4	100.0				
計	度数	3,758	1,049	267	20,679	計	度数	2,604	677	116	18,706				
	割合	18.2	5.1	1.3	100.0		割合	13.9	3.6	0.6	100.0				
高校	読まない	度数	3,879	1,781	1,015	11,464	高校	読まない	度数	2,944	1,014	407	12,404		
		割合	33.8	15.5	8.9	100.0			割合	23.7	8.2	3.3	100.0		
		少年ジャンプ	度数	5,541	2,286	1,143			15,348	少年ジャンプ	度数	783	229	77	3,844
			割合	36.1	14.9	7.4			100.0		割合	20.4	6.0	2.0	100.0
		少年マガジン	度数	999	399	201			2,555	少年マガジン	度数	49	11	3	232
			割合	39.1	15.6	7.9			100.0		割合	21.1	4.7	1.3	100.0
		少年サンデー	度数	200	76	31			744	少年サンデー	度数	20	7	3	172
			割合	26.9	10.2	4.2			100.0		割合	11.6	4.1	1.7	100.0
		コロコロコミック	度数	58	30	22			187	コロコロコミック	度数	14	11	4	45
			割合	31.0	16.0	11.8			100.0		割合	31.1	24.4	8.9	100.0
		コミックボンボン	度数	40	29	11			96	コミックボンボン	度数	6	5	2	19
			割合	41.7	30.2	11.5			100.0		割合	31.6	26.3	10.5	100.0
		りぼん	度数	81	49	25			153	りぼん	度数	97	38	12	462
			割合	52.9	32.0	16.3			100.0		割合	21.0	8.2	2.6	100.0
		なかよし	度数	24	21	10			51	なかよし	度数	5	2	0	48
			割合	47.1	41.2	19.6			100.0		割合	10.4	4.2	0.0	100.0
		別冊マーガレット	度数	15	10	4			41	別冊マーガレット	度数	324	82	28	1,416
			割合	36.6	24.4	9.8			100.0		割合	22.9	5.8	2.0	100.0
		ちゃお	度数	57	38	24			119	ちゃお	度数	7	7	4	57
			割合	47.9	31.9	20.2			100.0		割合	12.3	12.3	7.0	100.0
少女コミック	度数	40	25	15	75	少女コミック	度数	644	215	59	2,459				
	割合	53.3	33.3	20.0	100.0		割合	26.2	8.7	2.4	100.0				
マーガレット	度数	29	21	13	48	マーガレット	度数	165	46	17	698				
	割合	60.4	43.8	27.1	100.0		割合	23.6	6.6	2.4	100.0				
その他	度数	1,437	693	396	3,579	その他	度数	1,392	509	204	5,175				
	割合	40.2	19.4	11.1	100.0		割合	26.9	9.8	3.9	100.0				
無回答	度数	332	167	86	859	無回答	度数	204	87	30	716				
	割合	38.6	19.4	10.0	100.0		割合	28.5	12.2	4.2	100.0				
計	度数	12,732	5,625	2,996	35,319	計	度数	6,654	2,263	850	27,747				
	割合	36.0	15.9	8.5	100.0		割合	24.0	8.2	3.1	100.0				

わが国における妊産婦の喫煙・飲酒に関する疫学的研究

わが国における妊産婦の喫煙・飲酒に関する疫学的研究

主任研究者 林 謙治（厚生労働省 国立保健医療科学院 次長）

分担研究者 大井田 隆（日本大学医学部公衆衛生学部門 教授）

尾崎 米厚（鳥取大学医学部社会医学講座環境予防医学分野 助教授）

研究協力者 曾根 智史（厚生労働省 国立保健医療科学院公衆衛生政策部 部長）

武村 真治（厚生労働省 国立保健医療科学院公衆衛生政策部 主任研究官）

兼板 佳孝（日本大学医学部公衆衛生学部門 助手）

研究要旨

全国規模で妊産婦の喫煙・飲酒行動および関連要因を疫学的に明らかにし、健康教育の推進を含めた今後の政策立案に資するための科学的根拠を確立することを目的として、全国調査を実施した。調査は、社団法人 日本産婦人科医会の調査定点 940 か所の産科医療機関のうち、最終的に調査協力の得られた全国 344 か所で実施した。対象者は当該産科医療機関を受診した女性のうち、「妊娠の確定した再診の妊婦」とし、初診の者、妊娠未確定の者、妊娠の継続を望まない者は除いた。無記名自記式の質問票を用いて、待ち時間に各自に回答してもらい、密封封筒により回収した。回答数は 19,650 で、全てを有効回答として解析の対象とした。

妊娠前喫煙率は 22.9% で、妊娠がわかってからの喫煙率（妊娠中喫煙率）は 7.8% であった。妊娠前喫煙者の 67.9% は妊娠を機に禁煙していた。禁煙は妊娠初期の段階で行われていると推測された。妊娠中喫煙者も 82.1% は妊娠前に比べ喫煙本数を減らしており、約 97% は禁煙・節煙の意思を表していた。最終学歴が高くなるにつれ妊娠前・妊娠中喫煙率は低くなる傾向があった。回答者の約 2 分の 1 は日常的に受動喫煙しており、その場合の喫煙者は夫が 8 割であった。

妊娠前飲酒者の一部はかなり高頻度、多量に飲酒している実態が明らかとなった。妊娠中に飲酒していると答えた者は 4.7% で、妊娠前飲酒者の 10 分の 1 は妊娠後も飲酒を継続していた。属性別では最終学歴の影響が多く、設問で喫煙ほど明確ではなかった。また周囲からの禁酒の勧奨も喫煙ほど高くなく、妊産婦本人および周囲の人々の、妊娠中の飲酒に対する姿勢が喫煙に対するものとはかなり異なるのではないかと推察された。

禁煙・禁酒とも保健医療従事者の働きかけは少なく、医療機関・行政による支援が未だ不十分である実態が明らかとなった。

A. 研究目的

妊婦が喫煙すると、喫煙しない場合に比べ低出生体重、早産、周産期死亡、妊娠・分娩合併症（胎盤早期剥離、前置胎盤、出血など）、自然流産などのリスクが1.5～2.0倍高まるとされている。また、出産後も母親の喫煙によって、子どもの気管支炎や気管支喘息のリスクが2.0倍程度高まることが報告されている。若い女性の喫煙率が上昇を続けている現状を考慮すると、妊産婦の防煙・禁煙教育は今後さらに重要性を増すことが予想される。また、妊娠中の過度の飲酒は、場合によっては胎児性アルコール症候群を引き起こすことが知られている。しかし、わが国では現在までのところ、平成13年度に実施された妊婦調査以外には妊産婦の喫煙・飲酒実態に関する全国調査に基づくデータはない。

本研究では、全国規模で妊産婦の喫煙・飲酒行動および関連要因を疫学的に明らかにし、健康教育の推進を含めた今後の政策立案に資するための科学的根拠を確立することを目的とする。平成17-18年度(以後は2006年とする)は、平成13年度の成果(調査実施は平成14年2月、以後2002年とする)を踏まえ、全国調査を実施した。調査は、社団法人日本産婦人科医会の調査定点940か所の産科医療機関のうち、最終的に調査協力の得られた全国344か所で実施した(208か所が不参加を表明)。

B. 研究方法

調査は2005年11月に社団法人日本産婦人科医会の調査定点940か所に対してに日本産婦人科医学会会長からの依頼状、調査手順、調査の参加有無を質問するための返信用はがきの3点を日本産婦人科医学会事務局より送付した。調査定点の医療機関は受け取ったはがきに参加意志の有無と年間出生数を記載して事務局に返信し、そのはがきは日本大学医学部公衆衛生学教室に届けられた。公衆衛生学教室では各出生数に基づいて、参加意志のある医療機関に調査票、調査票入れの封筒、筆記用具および喫煙による胎児の健康被害についてのパンフレットの4点を2006年1月末に送付

した。調査票の発送数は24,000枚であったが、対象者が記入した後回収された調査票は19,650枚であった。また、使用されない調査票は日本大学医学部まで戻すように依頼してあったが1,132枚の使用されない白紙の調査票が戻された。

対象者は当該産科医療機関を受診した女性のうち、「妊娠の確定した再診の妊婦」とした。初診の者、妊娠未確定の者、妊娠の継続を望まない者は除いた。無記名自記式の質問票を用いて、待ち時間に各自に回答してもらい、密封封筒により回収した。

調査項目は、属性(年齢、最終学歴)、妊娠状況、就業状況、妊娠前の喫煙・飲酒状況、現在の喫煙・飲酒状況、喫煙・飲酒の胎児への影響の認知、周囲の人からの喫煙・飲酒に関する働きかけの有無、受動喫煙の状況、今後の禁煙・禁酒の意思(喫煙者・飲酒者のみ)等であった。

調査は平成18年2月の2週間実施した。ただし、施設によって実際の調査期間には多少の長短があった。各施設内での対象妊婦の選定は基本的に上記カテゴリーに合致した者全員であり、サンプリングは行わなかった。

調査票には回答内容が直接当該参加施設の職員の目に触れないことを明記し、かつ密封封筒で回収することによって、プライバシーに留意するとともに、できるだけありのままの回答を引き出すよう努めた。

なお、本研究は、国立保健医療科学院の倫理委員会の承認を受けた。

ただし、施設によって実際の調査期間には多少の長短があった。各施設内での対象妊婦の選定は基本的に上記カテゴリーに合致した者全員であり、サンプリングは行わなかった。

調査票には回答内容が直接当該参加施設の職員の目に触れないことを明記し、かつ密封封筒で回収することによって、プライバシーに留意するとともに、できるだけありのままの回答を引き出すよう努めた。

C. 研究結果

参加施設数は344か所、回答数は19,650件であった。全てを有効回答として解析の対象とした。

1. 属性回答者の属性を表1に示す。回答者の平均年齢は29.9歳(2002年29.3歳)であった。年齢階級別では30-34歳が最も多く、次いで25-29歳であった。年齢階級は基本的に5歳毎としたが、40歳以上は少数のため一つの階級でまとめた。また、19歳以下は未成年として一つの階級とした。19歳以下と40歳以上の年齢階級は、他の年齢階級に比し少数のため、以下の全ての結果の解釈において注意が必要である。

最終学歴は、高等学校卒がもっとも多く、次いで短期大学卒、専門学校卒、大学(大学院)卒、中学校卒の順であった。

今回の妊娠が初めての妊娠である者(初回妊娠者)が回答者のほぼ半数であった。

出産予定日と調査月日から回答時点における妊娠週数を算出し、さらに妊娠初期、中期、後期に分けた。妊娠後期の者が5割以上で最も多く、次いで中期、初期の順であった。

回答時点での就業状況は、約4分の1の回答者が回答時点で常勤または非常勤の仕事をしており、残りは就業していなかった。

表には示していないが、一人以上子どもがいる人は全体の41.5%(2002年40.3%)であった。

2. 妊娠前の喫煙状況

表2-1~6-2は妊娠前の喫煙状況を、年齢階級別、最終学歴別、就業状況別、初回妊娠と複数回妊娠別、妊娠状況別に2002年、2006年と示したものである。

全体では22.9%(2002年25.7%)の者が妊娠前に喫煙していた。2002年に比べて妊娠前喫煙率が25.7%から22.9%に減少したが、「以前喫煙していたがやめた」が8.7%から10.2%と増加している。

年齢階級別では、19歳以下の喫煙率が51%(2002年54%)と高く、次いで20-24

45%(2002年45%)、25~29歳25%(2002年27%)

の順であった。

最終学歴別では、最終学歴が高くなるにつれ喫煙率は低くなっていた。中学校卒では3人に2人以上は喫煙者(2002年64%、2006年69%)であった。

就業状況別では喫煙率、喫煙本数とも、一定の傾向はみられなかったが、2回の調査ともその傾向は同じであった。

初回妊娠者と複数回妊娠者、妊娠状況別(初期・中期・後期)では、2002年、2006年とも妊娠前喫煙率に大きな差はなかった。

3. 妊娠中の喫煙状況

表7-1~11-2は妊娠中(妊娠がわかってから)の喫煙状況を、年齢階級別、最終学歴別、就業状況別、初回妊娠と複数回妊娠別、妊娠状況別に示したものである。全体で約7.8%の者(2002年9.9%)が「妊娠がわかってから」も喫煙していた。すなわち妊娠前喫煙者(22.9%)のうち、約3分の2が妊娠を機に禁煙するが、残り3分の1は、妊娠中も喫煙を継続していた。年齢階級別では19歳以下と20~24歳の喫煙率が依然として高かった。

最終学歴別では、最終学歴が高くなるにつれて妊娠中喫煙率が低くなっていた。中学校卒では妊娠がわかった後も全体の3割の者が喫煙していた。また、表には示さないが、最終学歴別の禁煙率をみると、中学校48.4%、高校66.8%、専門学校70.9%、短大79.3%、大学・大学院82.7%となり、最終学歴が高くなるほど高値を示した(2002年—中学校41.1%、高校59.1%、専門学校65.8%、短大73.9%、大学・大学院78.7%)。

初回妊娠者と複数回妊娠者では、前者の方が妊娠中の喫煙率が低かった。表には示さないが、禁煙率をみると、初回妊娠者76.2%、複数回妊娠者59.6%(2002年—初回妊娠者71.5%、複数回妊娠者50.8%)で、前者の方が後者に比べ、妊娠を機に禁煙した者の割合が約2割高かった。2006年と2002年の妊娠中の喫煙状況を年齢階級別、最終学歴別、就業状況別、初回妊娠と複数回妊娠別、妊

娠状況別に比較してもその傾向は変わらなかった。

4. 受動喫煙の状況

受動喫煙については、全員に「現在、日常的にあなたの前でたばこを吸う人はいますか。」と質問した（下線原文のまま）。

表 12-1～16-2 は受動喫煙の状況を年齢階級別、最終学歴別、就業状況別、初回妊娠と複数回妊娠別、妊娠状況別に示したものである。全体で6割以上の者が受動喫煙している状況で生活していた。表には示していないが、その場合の喫煙者を複数回答で聞いたところ、夫 80.8%、夫以外の同居家族 18.2%、友人・職場の人（同僚・客など） 28.7%、飲食店・路上などの人 14.3%（2002 年—夫 82.0%、夫以外の同居家族 17.0%、友人・職場の人（同僚・客など） 32.9%、飲食店・路上などの人 14.2%）であった。40 歳以上を除き、年齢が高くなるにつれ、受動喫煙の割合は減少していた。回答者の最終学歴が高くなるほど受動喫煙の割合も減少していた。

就業状況別では、常勤就業者でやや高く、妊娠前からの非就業者でやや低かった。

初回妊娠者と複数回妊娠者、妊娠状況別（初期・中期・後期）では、受動喫煙の状況に大きな差はなかった。2006 年と 2002 年の妊娠中の受動喫煙状況を年齢階級別、最終学歴別、就業状況別、初回妊娠と複数回妊娠別、妊娠状況別に比較してもその傾向は変わらなかった。

5. 妊娠による喫煙量の変化

表 17-1～21-2 には示したように、妊娠中喫煙者の妊娠による喫煙量の変化を年齢階級別、最終学歴別、就業状況別、初回妊娠と複数回妊娠別、妊娠状況別に検討した。妊娠中喫煙者の 82.2%が妊娠を機に本数を減らしたと回答した妊婦の年齢階級別比率（19 歳以下：83.3%、20-24 歳：81.5%、25-29 歳：86.0%、30-34 歳：81.6%、35-39 歳：77.3%、40 歳以上：71.4%）、就業状況別比率（常勤就職：81.7%、非

常勤で就職：79.8%、妊娠後非就業：85.1%、非就業：79.8%）では一定の傾向はみられなかった。

最終学歴別に見ると、本数を減らした者の割合は最終学歴が高くなるにつれ増加するのに対し（中学：80.2%、高校：81.5%、84.3%、短大：83.6%、大学大学院：86.4%）、妊娠前と同じ本数と答えた者の割合は、逆に最終学歴が高くなるにつれ減少する傾向（中学：19.0%、高校：17.9%、15.3%、短大：14.5%、大学大学院：13.6%）が見られた。

初回妊娠の者は、複数回妊娠の者に比べ、妊娠を機に喫煙本数を減らした割合が高く（初回：90.1%、2 回以上：77.7%）、同じ本数を吸っていると答えた割合が低かった（初回：9.5%、2 回以上：21.5%）。

妊娠状況別では、妊娠初期の者が本数を減らした割合が若干高く（初期：92.1%、中期：83.4%、後期：79.9%）、同じ本数の者の割合が若干低かったが（初期：7.9%、中期：15.6%、後期：19.3%）、それほど大きな差ではなかった。

6. 妊娠中喫煙者の今後の禁煙・節煙の意思

表 22-1～25-2 は妊娠中も喫煙している者に対して今後の禁煙・節煙の意思を尋ねた結果を年齢階級別、最終学歴別、就業状況別、初回妊娠と複数回妊娠別、妊娠状況別に示したものである。全体では約 8 割の妊娠中喫煙者が「ぜひ」または「できれば禁煙したい」としており、節煙希望者を含めると、ほぼ全員が禁煙・節煙を希望していた。40 歳以上の者は他の年齢階級の者に比し、禁煙も節煙もしたくないとする者が多かった。最終学歴別では、中学校で、「ぜひ禁煙したい」とする者が比較的少なく、節煙したい、あるいは禁煙も節煙もしたくないとする者が多かった。就業状況別では一定の傾向はみられなかった。初回妊娠の方が、複数回妊娠者よりもぜひ禁煙したいとする者が多かった。また、妊娠状況別では、初期より中期、中期より後期の者の方が喫煙に傾斜する回答が多かった。

7. 妊娠前の飲酒状況

表 26-1～30-2 は、妊娠前の飲酒状況を年齢階級別、最終学歴別、就業状況別、初回妊娠と複数回妊娠別、妊娠状況別に示したものである。全体では、約半数弱が、妊娠がわかる前、日常的にアルコール類（ビール、日本酒、焼酎、ワインなど）を飲んでいと回答した。年齢階級による傾向は、特に認められなかった。最終学歴別では、一定の傾向はなかった。就業状況別では、妊娠前から非就業の者の飲酒ありが若干少なかった。初回妊娠者に飲酒ありが若干多かったが、妊娠状況別には一定の傾向はなかった。

表には示さなかったが、妊娠前に「飲んでいて」者に対し、飲酒頻度と1回あたりの飲酒量を尋ね、年齢階級別、最終学歴別、就業状況別、初回妊娠と複数回妊娠別、妊娠状況別に検討すると飲酒頻度については、妊娠前飲酒者の23.4%がほとんど毎日飲酒していた。年齢が高くなるほどほとんど毎日する者が増加する傾向がみられた(19歳以下: 22.5%, 20-24歳: 17.8%, 25-29歳: 20.5%, 30-34歳: 23.6%, 35-39歳: 31.7%, 40歳以上: 35.1%)。また、最終学歴が高くなるほどほとんど毎日飲酒する者が減少していた(中学: 38.4%, 高校: 26.9%, 専門: 22.8%, 短大: 19.1%, 大学大学院: 18.5%)。就業状況別(常勤就職: 23.1%, 非常勤で就職: 26.8%, 妊娠後非就業: 24.2%, 非就業: 21.8%)、初回妊娠・複数回妊娠別(初回: 21.1%, 2回以上: 25.9%)、妊娠状況別(初期: 24.3%, 中期: 24.3%, 後期: 22.4%)では大きな差はなかった。

1回あたりの飲酒量については、妊娠前飲酒者の6.1%が1回あたりビールに換算して中びん3本以上飲んでいると回答した。年齢別では19歳以下、20-24歳に中びん3本以上が多く(19歳以下: 16.8%, 20-24歳: 12.3%, 25-29歳: 6.5%, 30-34歳: 4.2%, 35-39歳: 4.7%, 40歳以上: 1.7%)、一方、年齢層が高くなるほどコップ1杯程度の少量飲酒者の割合が増加していた(19歳以下: 31.9%, 20-24歳: 34.4%, 25-29歳: 43.3%, 30-34歳: 45.2%, 35-39歳: 45.8%, 40歳以上: 40.7%)。最終学歴別にみると、

最終学歴が高くなるほど多量飲酒の割合が減り(中学: 24.7%, 高校: 7.5%, 専門: 5.3%, 短大: 3.3%, 大学大学院: 2.5%)、少量飲酒の割合が増加する傾向(中学: 21.3%, 高校: 38.7%, 専門: 43.6%, 短大: 49.9%, 大学大学院: 48.8%)がみられた。就業状況別では、妊娠前から非就業の者で飲酒量が少ない傾向がみられた(コップ1杯程度少量; 常勤就職: 40.6%, 非常勤で就職: 46.6%, 妊娠後非就業: 36.8%, 非就業: 51.0%)。また、初回妊娠者の方が飲酒量が多い傾向があった(中びん3本以上; 初回: 7.2%, 2回以上: 4.8%)。妊娠状況別ではほとんど差はなかった。

8. 妊娠中の飲酒状況

表 31～35 は妊娠中(妊娠がわかってから)の飲酒状況を、年齢階級別、最終学歴別、就業状況別、初回妊娠と複数回妊娠別、妊娠状況別に示したものである。回答者全体の4.7%が妊娠中も飲酒を続けていた。妊娠前の飲酒率が46%であることから、妊娠前飲酒者の約90%は妊娠を機に禁酒したが、残りの10%は飲酒を継続していたことがわかる。

年齢階級別では、40歳以上を除いて、年齢層が高くなるほど、妊娠中飲酒者の割合が増加する傾向がみられた。最終学歴別、就業状況別では、一定の傾向はみられなかった。初回妊娠者は複数回妊娠者に比べて妊娠中飲酒の割合が低かった。妊娠状況別では、妊娠が進行した者ほど飲酒率が高くなる傾向があった。

8. 妊娠による飲酒量・回数の変化

表には示さなかったが、妊娠中飲酒者について妊娠による飲酒量を、年齢階級別、最終学歴別、就業状況別、初回妊娠と複数回妊娠別、妊娠状況別を検討した。年齢が高い程、また最終学歴が高い程少量飲酒が多かった。

9. 妊娠前飲酒者に対する周囲の人からの禁煙の勧奨

表 36-1～40-2 は、妊娠前に飲酒していた回答者に、妊娠後に周囲の人から飲酒をやめるように言われたことがあるかどうかを尋ねた結果を、年齢階級別、最終学歴別、就業状況別、初回妊娠と複数回妊娠別、妊娠状況別に示したものである。全体では、4 割以上の妊娠前飲酒者が禁酒の勧奨を受けていた。年齢階級別では、若年層ほど禁酒勧奨の割合が高かった。最終学歴別、就業状況別では目立った傾向はみられなかった。初回妊娠者は複数回妊娠者に比し周囲から禁酒の勧奨を受けた割合が高かった。妊娠状況別では差はなかった。

表には示さないが、勧奨があったと回答した者に、具体的に誰から禁酒を勧められたのかを選択肢から複数回答で選んでもらったところ、「夫から」62.8%、「親から（自分の親または夫の親）」57.9%、「友人・知人・同僚から」36.7%、「医師・助産婦・看護婦など専門家から」14.1%という結果が得られた。

D. 考察

今回の調査は、社団法人 日本産婦人科医会の調査定点 940 か所の産科医療機関のうち、最終的に調査協力の得られた全国 344 か所で実施した。したがって、全国の推計妊婦数約 100 万人から完全に無作為抽出したのではないが、現時点で考えられる最も偏りの少ない方法で調査対象施設を選定しており、その結果は全国の状況を反映しているものと考えられる。

1. 妊娠前・妊娠中の喫煙状況について

今回(2006 年)の調査で妊娠中の喫煙率は 7.8%であった。4 年前の 2002 年調査喫煙率 9.9%に比較して低くなっている。表 7-11 の年齢階級別、最終学歴別、就業状況別、初回妊娠と複数回妊娠別、妊娠状況別のいずれの層を見ても喫煙率が下がっていることは健康日本 21 における禁煙運動の進展や産婦人科医師による保健指導の成果があったものと推測される。特に年齢階級別での 19 歳以下で 23.0%から 13.9%に低下していることは十分評価できる。

しかしながら、妊娠前喫煙者 (22.9%) のうち、約 6 割が妊娠を機に禁煙するが、残り 4 割弱は、妊娠中も喫煙を継続していた。喫煙率 7.8%は言い換えれば 12 人に 1 人の割合であり、喫煙の影響を受ける胎児の割合としては決して低い数字ではない。ただし、これらの妊娠中喫煙者の 8 割以上は妊娠前に比し喫煙本数を減らしていた。妊娠状況 (初期・中期・後期) 別では妊娠中の喫煙率にほとんど差がないことから、妊娠を機に禁煙する者は妊娠の初期の段階に多いものと推察される。したがって、禁煙の動機を持つ妊娠前喫煙者に対しては、妊娠確定の早い段階で適切な支援をすることによって、禁煙率を高めることが可能であると考えられる。また、初回妊娠者は複数回妊娠者に比し、本人および周囲の関心や動機が高い傾向にあった。初回妊娠者への支援はより効果が高いものと推察される。

今回の調査では、最終学歴が高くなるにつれ妊娠前、妊娠中喫煙率が低くなる傾向が極めて明確にみられた。米国の調査でも一般に教育年数が長くなるにつれ喫煙率が低くなることが報告されている。わが国において、最終学歴は単に教育年数を指すのではなく、妊産婦の置かれている社会的状況を総合的に表している可能性が高い。妊産婦に対する喫煙対策を推進する上で、考慮すべき重要なファクターといえよう。

2. 受動喫煙について

今回の調査では、回答者の 2 人に 1 人は日常的に環境たばこ煙に曝露 (受動喫煙) していることが明らかとなった。その場合の喫煙者の 8 割は夫であり、家庭内分煙が十分に行われていない状況が明らかとなった。

妊娠中喫煙していない者でも 6 割が受動喫煙しており、喫煙者では約 90%が受動喫煙していた。喫煙者は自分のたばこ煙だけではなく、周囲のたばこ煙にも高頻度で曝露している状況が示唆された。喫煙に関する周囲への働きかけとしては、自分の近くで吸わないように伝えたり、喫煙者に

近づかないようにしたり、換気に気をつけるなど受動喫煙を避けるための働きかけの割合が高かった。ただ、受動喫煙率の高さを考えると非喫煙妊婦であっても分煙対策は個人的な努力だけでは十分とはいえず、家族や職場の支援が不可欠であると考えられた。

また、受動喫煙率は回答者の最終学歴が高くなるにつれ減少したが、もっとも低い大学・大学院卒でも4割を超えていた。これは回答者とその夫の最終学歴がある程度パラレルであることと、しかしながら夫の喫煙率が妻のそれに比べて際だって高いことの二点を反映しているからであると考えられた。

3. 飲酒状況について

妊娠前飲酒者の一部はかなり高頻度、多量に飲酒している実態が明らかとなった。妊娠中に飲酒していると答えた者は4.7%で、妊娠前飲酒者の約10%は妊娠後も飲酒を継続していた。属性別では最終学歴の影響が多く設問で喫煙ほど明確ではなかった。

喫煙においても飲酒においても、周囲からの働きかけの主体として最も多かったのは「夫」であり、医師、助産師、看護師などの専門家をあげた人は極めて少数（喫煙16%、飲酒14%）であった。禁煙・禁酒に関する医療機関・行政における支援が未だ不十分である実態が明らかとなった。

E. 結論

全国規模で妊産婦の喫煙・飲酒行動および関連要因を疫学的に明らかにし、健康教育の推進を含めた今後の政策立案に資するための科学的根拠を確立することを目的として、全国調査を実施した。調査は、社団法人日本産婦人科医会の調査定点940か所の産科医療機関のうち、最終的に調査協力の得られた全国344か所で実施した。対象者は当該産科医療機関を受診した女性のうち、「妊娠の確定した再診の妊婦」とし、初診の者、妊娠未確定の者、妊娠の継続を望まない者は除い

た。無記名自記式の質問票を用いて、待ち時間に各自に回答してもらい、密封封筒により回収した。回答数は19,650で、全てを有効回答として解析の対象とした。

妊娠前喫煙率は22.9%で、妊娠がわかってからの喫煙率（妊娠中喫煙率）は7.8%であった。妊娠前喫煙者の67.9%は妊娠を機に禁煙していた。禁煙は妊娠初期の段階で行われていると推測された。妊娠中喫煙者も82.1%は妊娠前に比べ喫煙本数を減らしており、約97%は禁煙・節煙の意思を表していた。最終学歴が高くなるにつれ妊娠前・妊娠中喫煙率は低くなる傾向があった。回答者の約2分の1は日常的に受動喫煙しており、その場合の喫煙者は夫が8割であった。

妊娠前飲酒者の一部はかなり高頻度、多量に飲酒している実態が明らかとなった。妊娠中に飲酒していると答えた者は4.7%で、妊娠前飲酒者の10分の1は妊娠後も飲酒を継続していた。属性別では最終学歴の影響が多く設問で喫煙ほど明確ではなかった。また周囲からの禁酒の勧奨も喫煙ほど高くなく、妊産婦本人および周囲の人々の、妊娠中の飲酒に対する姿勢が喫煙に対するものとはかなり異なるのではないかと推察された。

禁煙・禁酒とも保健医療従事者の働きかけは少なく、医療機関・行政による支援が未だ不十分である実態が明らかとなった。

謝辞

本研究の実施にあたり、多大なるご理解とご協力をいただきました社団法人日本産婦人科医会および調査にご協力いただいた産科医療機関の皆様へ深く感謝いたします。

表1 回答者の属性

2002年			2006年		
	人数	%		人数	%
<u>年齢</u>			<u>年齢</u>		
19歳以下	234	1.4	19歳以下	286	1.5
20-24歳	2103	12.7	20-24歳	2361	12.0
25-29歳	6358	38.5	25-29歳	6087	31.0
30-34歳	5764	34.9	30-34歳	7561	38.5
35-39歳	1808	10.9	35-39歳	2975	15.1
40歳以上	255	1.5	40歳以上	397	1.9
不明	6	0.0	不明	1	0.0
<u>最終学歴</u>			<u>最終学歴</u>		
中学校	690	4.2	中学校	968	4.9
高校	6062	36.7	高校	6370	32.4
専門学校	3207	19.4	専門学校	4014	20.4
短大	3949	23.9	短大	4561	23.2
大学・大学院	2548	15.4	大学・大学院	3640	18.5
不明	72	0.4	不明	97	0.5
<u>就業状況</u>			<u>就業状況</u>		
常勤で就業	3155	19.1	常勤で就業	3873	19.7
非常勤で就業	1162	7.0	非常勤で就業	1467	7.5
妊娠を機に退職・休職	5396	32.6	妊娠を機に退職・休職	6653	33.9
妊娠前から就業なし	6677	40.4	妊娠前から就業なし	7502	38.2
不明	138	0.8	不明	155	0.8
<u>妊娠回数</u>			<u>妊娠回数</u>		
初めて	8234	49.8	初めて	9431	48.0
2回目	5584	33.8	2回目	6875	35.0
3回目	2005	12.1	3回目	2427	12.4
それ以上	661	4.0	それ以上	860	4.4
不明	44	0.3	不明	57	0.3
<u>妊娠状態</u>			<u>妊娠状態</u>		
妊娠初期	1810	11.0	妊娠初期	2006	10.2
妊娠中期	4958	30.0	妊娠中期	6140	31.2
妊娠後期	9213	55.7	妊娠後期	11137	56.7
不明	547	3.3	不明	367	1.9

表2-1 2002年 年齢階級別にみた妊娠前の喫煙状況

	19歳以下 (n=230)	20～24歳 (n=2091)	25～29歳 (n=6320)	30～34歳 (n=5733)	35～39歳 (n=1797)	40～歳 (n=252)	全体 (n=16423)
喫煙していなかった	77 33.5%	923 44.1%	4002 63.3%	4219 73.6%	1357 75.5%	195 77.4%	10773 65.6%
以前喫煙していたがやめた	28 12.2%	227 10.9%	584 9.2%	466 8.1%	102 5.7%	15 6.0%	1422 8.7%
喫煙していた	125 54.3%	941 45.0%	1734 27.4%	1048 18.3%	338 18.8%	42 16.7%	4228 25.7%

($\chi^2=862.96$, $p<0.01$)

表2-2 2006年 年齢階級別にみた妊娠前の喫煙状況

	19歳以下 (n=276)	20～24歳 (n=2310)	25～29歳 (n=6007)	30～34歳 (n=7455)	35～39歳 (n=2928)	40～歳 (n=374)	全体 (n=19350)
喫煙していなかった	77 37.7%	1055 45.7%	3845 64.0%	5435 72.9%	2240 76.5%	279 74.6%	12958 67.0%
以前喫煙していたがやめた	32 11.6%	271 11.7%	684 11.4%	714 9.6%	234 8.0%	32 8.6%	1967 10.2%
喫煙していた	140 50.7%	984 42.6%	1478 24.6%	1306 17.5%	454 15.5%	63 16.8%	4425 22.9%

($\chi^2=977.34$, $p<0.01$)

表3-1 2002年 最終学歴別にみた妊娠前の喫煙状況

	中学校 (n=676)	高等学校 (n=6011)	専門学校 (n=3194)	短期大学 (n=3934)	大学(院) (n=2543)	全体 (n=16358)
喫煙していなかった	146 21.6%	3417 56.8%	1976 61.9%	3056 77.7%	2139 84.1%	10734 65.6%
以前喫煙していたがやめた	65 9.6%	540 9.0%	321 10.1%	321 8.2%	165 6.5%	1412 8.6%
喫煙していた	465 68.8%	2054 34.2%	897 28.1%	557 14.2%	239 9.4%	4212 25.7%

($\chi^2=1648.30$, $p<0.01$)

表3-2 2006年 最終学歴別にみた妊娠前の喫煙状況

	中学校 (n=928)	高等学校 (n=6231)	専門学校 (n=3957)	短期大学 (n=4526)	大学(院) (n=3613)	全体 (n=19255)
喫煙していなかった	238 25.6%	3507 56.3%	2552 64.5%	3546 78.3%	3054 84.5%	12897 67.0%
以前喫煙していたがやめた	97 10.5%	722 11.6%	468 11.8%	410 9.1%	258 7.1%	1955 10.2%
喫煙していた	593 63.9%	2002 32.1%	937 23.7%	570 12.6%	301 8.3%	4403 22.9%

($\chi^2=2122.47$, $p<0.01$)

表4-1 2002年 就業状況別にみた妊娠前の喫煙状況

	常勤で 就業 (n=3141)	非常勤で 就業 (n=1152)	妊娠後 非就業 (n=5365)	非就業 (n=6638)	全体 (n=16296)
喫煙していなかった	2151 68.5%	703 61.0%	3191 59.5%	4662 70.2%	10707 65.7%
以前喫煙していたがやめた	247 7.9%	113 9.8%	547 10.2%	506 7.6%	1413 8.7%
喫煙していた	743 23.7%	336 29.2%	1627 30.3%	1470 22.1%	4176 25.6%

($\chi^2=174.80$, $p<0.01$)